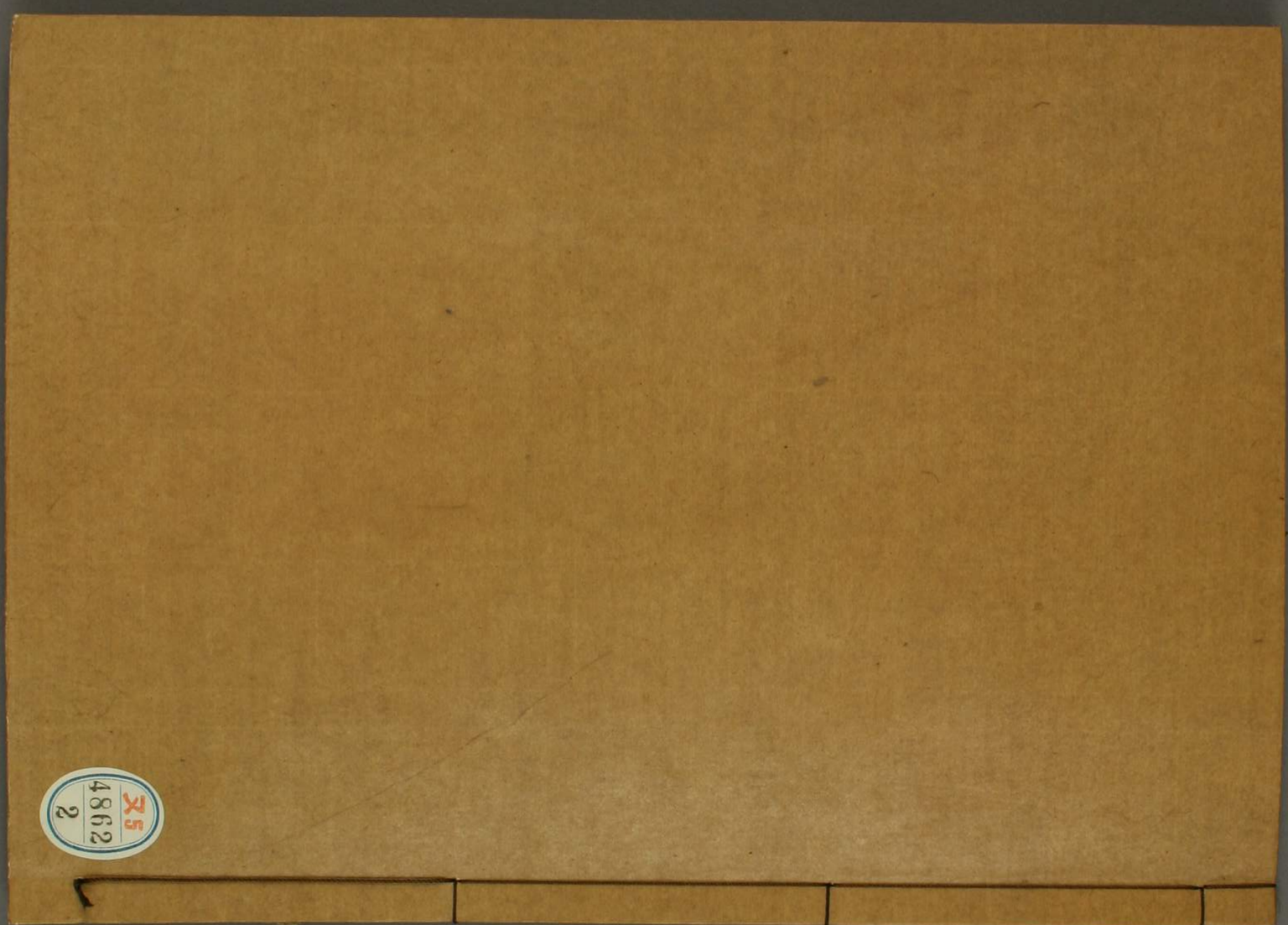
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black


X5
4862
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7
JAPAN

特
4862
2

正誤
繪入
開書

本朝諸士百家記 二

本朝諸士百家記目録　前集

巻之二

石川豪源与帝女房内通事

小つぼ川源之丞娘の事

あつもり小秋夫婦をたのむ毒薬の事

川原泳次郎逐電仇討の事

日本諸士百家記 巻之二 前集

日本諸士百家記 巻之二 前集

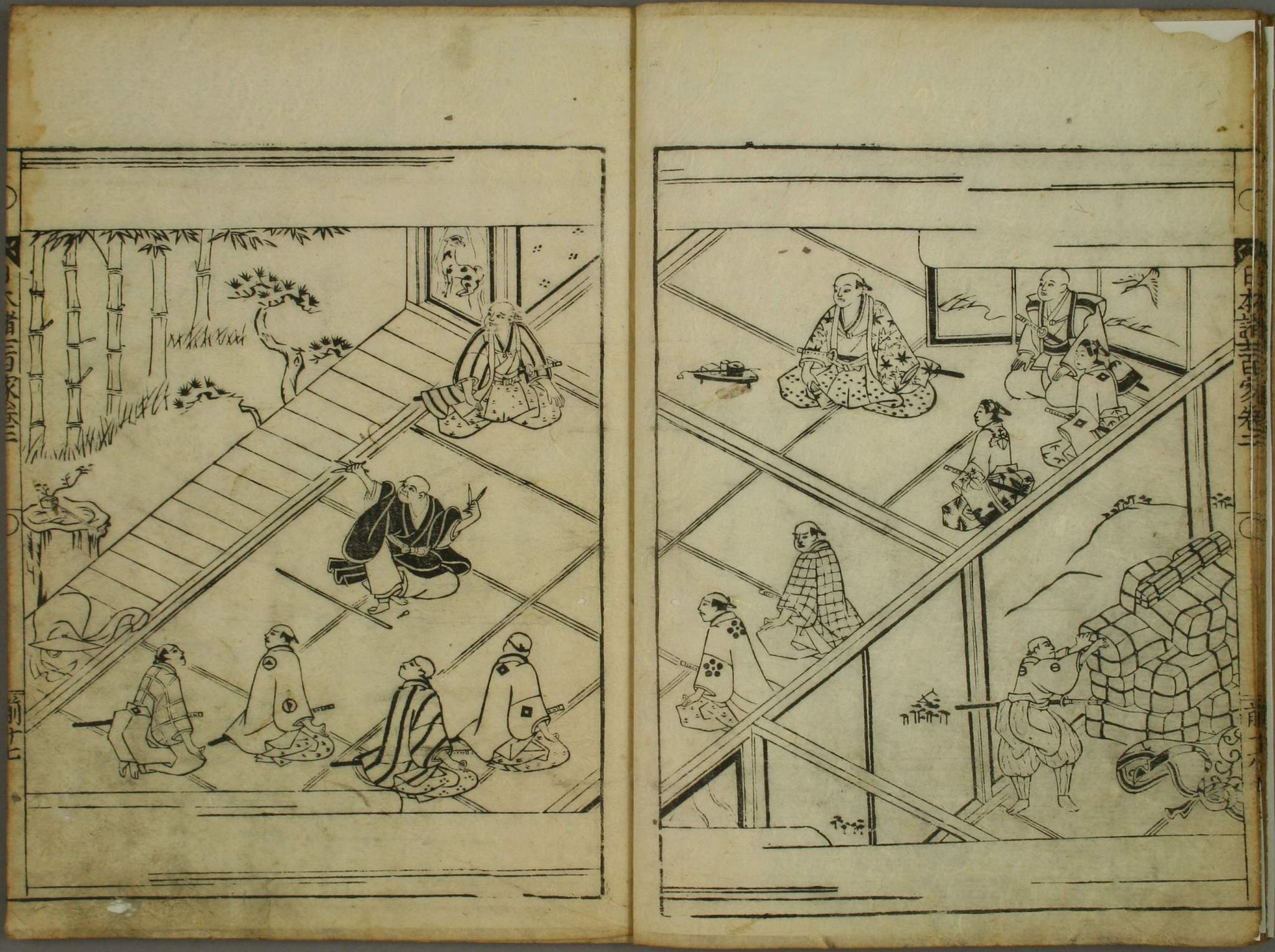
の紀さらいひ名付もの同家中奉公人ともなる
女今と物集いまぐ縁情のそひなるまでたがひ通ふの
こひしなよこてる事もて行度事なるひ行る
く娘十七の春をひとめ見て帰ての日金札のうへ
万そ庭銀の御給祖母て実上の吉日を撰婚姻のぎ
ろの事をつくり市松も婚姻の気幸法の妙一人の
幸久なおてなど娘よ小夜と云もが松もこれさ
ぬ五人ぬもお二人の方をれまるの
屋も立ねら市松家のみ植か年治と云着西来前二十
まだ松代のれとな約束古今の利益家内なもがれさ
ら統万事行ぐまもうお勤かる動の世話まだ
ありもぬでも重宝なる右馬まも着ありてとて一家中

元治元子九のうち人ともうやむ
人夫婦を意ようりしあさ重は飯食男共人欲なもと
孔机おもり人ぶてく後よ
まぐ子の分森武う明岡かる十九年九郎誰
孔密治許金をり人酔婦をめとりてをうねまり。律気
のかなるハひろ。お幸治閑
らまの意れ城の初
ま書初どうなもうたんと文なお
思もおをひ切なもんひろはたうねる松ちかお人
もなくく日数で送りる。小夜もん世孔ある五千御
よをづこけ庭れんか首ざ
孔を海れ掌成の海ハ

こゝろもうるはしくものごとをおもひ分のんれんなる
子を教そだてみれつゝもるおそれありてめでたきこと
ぞかし扨貧乏の家にあつて養育のつゞかぬ夫婦大よそ在郷
勤しらうひやかぬ事ゆへなるべし通常平治の料理方みて次なる
ことをしるせり
一魚鳥の料理方の次第
一鯛の作り身は皮を引て後に身を引かへし小骨を抜
しき目よりこそぎ切にすべし扨皮を引たる方を
上にしてうすく切べし
一鯛の皮引様は尾の方より引べし
一鯛の皮引たるは其まゝにてよし
一鯛の皮引たるは其まゝにてよし
一鯛の皮引たるは其まゝにてよ

出婦大ぜいのようなさわぎ。これも其その
徳のおかげのおしろもの。
扨機嫌よく黄金六十枚綿十把と申事
へ両刀一腰なんぞもひ。洋なれば滅亡と申事
もかかるべきのやーと申事。御奉行様も感心ぬ関女めが
と申渡つゝ。其ものを綱るの法天地神明
に誓言を立ておのおの名印をぞ
川柳評
法師が樹下石上にて居所と家ろく暮をし
なるほど線香をたてゝおわびをするのも
くろもけふ去事ぞろし。家ふ人の借用書を渡す

て遠ひ者素人方ばかりく。其時のかも
んこと歟。去ながら仕方ふく。
火をはなつ風呂を焚のでう御
烈そうして牡く基。後備ふ人気ふ眠をのつて
こをもとんと思ひ。
ろうそくの光ふ着九ふ被法師の着は
ろくとよりくまるもの也抗後ろの股ふ追付ふくなり
なる主ふ。彼法師ふ
薬南ふ法衣ふりなやし。
物の汗尾籠なる頼人ふ列
九加ふ気のそんふ立ふ
ふそ物ふ通り



と情ふかきこと二なき化身ましまして、さてくとんでもなき事ばかりを言ふらし、一宇を建へんとて金一俵僧俗に施しもとめさせ、しかも秋病のうあがらずして身まかりぬ。常に山を信仰の人皮をつつみ包しる守りを首にかけらるゝ。又ある人八百メ八百メ八百メと唱へて後の世の人々よ。信玄上杉謙信両家の大将の威勢ありて名ある武士の集まりよりて打ち入るうつゝ玉うつゞみの時の次第は記しがたし。

馬九疑病おそれあるのそとくく

古村弥平次柳生流の評判の事

針灸醫のごとくひざまづきて醫者と、いへども智行兼ね三ごくとひざまづかれ、武士は武士を猶武者と名付く。死生流の評判とこそ言ひ伝へたり。

武士と猶武者と名付くの事

去二両人の者亡名よき人柱の侍よりて主分れ惣の禄を離れ浪人となる。主君の命ずる大事ハ一命ハ私のものをうてるこれ武士の本意なり。

私のあくいうちと云ふ事ありもわるい方
お対策を施す。是が生じたる事ありて
くいうよ。古狩ふ平治といふ武士ありて
おもに花見のんなくつろぎ下の事にお利
屋そうつ古今あつまりて着もふ事新奇の草
履ぬぎ十門とぬる生田江遠初演れの着かえ年
比二三ぬるまでも筆を先へ出ぬ。柳の武の道は
長通奥庵ろうと屋のの武士を組ごと囲碁おたくま
徹夜して業ふ小敷れ若人いれをもつが小着生二ぬるを
御事かとて人ふ不審れそひをおうらん侍へうと上げ
つうてうれおとて一部屋をべて小着ありもとうろ対
ふ平治夜ぐれおうとて仕ごらんひ分る十門をとれく

村業履を用ふして客通をなを一敷れ
それ毎かごそせろうまむふ平治大うよ服ぎ
客端のなをぬわれ九みと立けよまち十門石まくをれ
先九世理ぬる九主九客裏をうれて次ぬそとうきまし
てと板打る討ろと。十門老遠て切結べふ平治ふ一討ごひ
しひ。ひのかたぬ向ぐくりは切ふうまと貴ぬく
石国一近辺ありとをうふ事うの業二三
人も石合け生先見法世理ぬ打く二人もお合ど十門
場ちて討とうぬる口情一
ふ二世ふ石ろ人切ひとひもよ
石うこと切て成せで平治
ぬりぬ。十門相ぬありぬとおしくとおふ一名。

くそこんやぶ祝えのうりをうけてうけてそれ村の
同じる世ぐうんぶんしゃ事をまそでれぶ平治かっこ今の刷り
当事元祇会てる大かみ作
立退り方ありぐぶぬ多
柳生流の薬を伴を
一江平治下り行ぬ往高ぬそ元産叫ぶ詩を等
一江平治人役うぬ書人ぬ
ぶひたる
一江平治婦打多時会乳立てぶ事
光雪なり
以次ぶ仇討ぬ討ぬる石ぬ人ぬ招ぶ同
一仇討の成敗者ぬ人会討ぶく時叫ぶとうさ菜

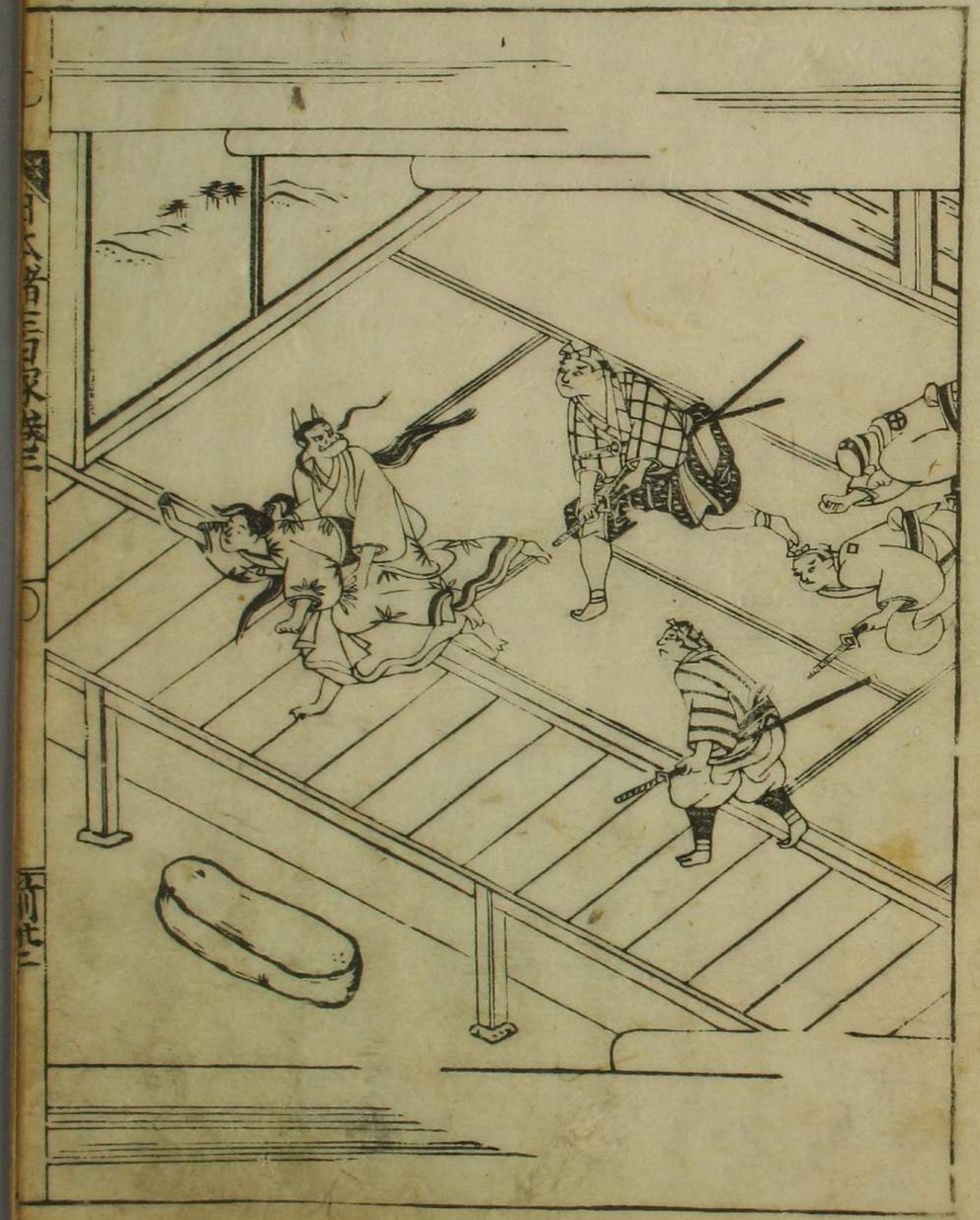
逃討免ぶ時分うり
出ぬぬと刻る免ぶ他
次第かひたくるそ
一仇討三人余作討
逃ぐる事検ぶ
免ぶ表利をめて
一科人ぐぶこ仇者ぬそ時分ぶて役ぐ
ぬぐ不免を討べ
一武家の日記ぬ仇討の成敗のぐ
ぐぶ詳ぬ用心る事たくれてそ
一相手あろびぐぶぬ
備るべぐぶろびぐる

かくりの
一 敵討のごとき事
一 被害の者を討ちとめ
一 被害の者を討ちとめ
一 被害の者を討ちとめ

如有毒食同出度與一切毒合共和合
名雜毒雜毒不殺人三毒合故不殺人
二殺身不通二時者氣毒未滅故不殺
人如人食已通二時者氣毒滅故殺人
又以漸死如人食已二日乃死二日中
間漸漸死如是等名為雜毒雜毒者
譬如一切煩惱合故不名為三毒三毒
現世必能殺生者是名為雜毒如毒蛇
之毒一切毒藥之毒一切毒藥之毒合
和雜毒併力殺人三毒亦如是雜毒
如毒蛇毒併力殺人三毒亦如是雜毒
如毒蛇毒併力殺人三毒亦如是雜毒
如毒蛇

機嫌をうかがいやうやう九五九郎家の敷居を跨ぐ事を許されぬ事十九年九一年ぶりく許されぬ代りの例より海老。もつて流れ言ふてなひてくれのみるひつ迎ひ。御ろへーとぴ。を抜ていつわられ代り倒城をひて毒ともる事。先程新宅の門口をたたく人あり。女房気味わるくおやりんでそのひ開けよとの事。九五九郎よく仕りるが。ご承知の通り一年餘り一家一門なき人。ゆへ。一年餘りよ

前北



の方にとうて立ぞんもやいもしろくなる
ころ蜂ハ巣をかけ子をうみ付ける
ほど計そたぐひなきこうくわんなり
なんぞ一ぴきをかごより外へ放ける
常にうとうて殊にかわいがりける
ゆきとうて追ひけり二人の者も主人の
てたうけおもてへ出ず生涯の様体
うの陰よりわれわれかこの
ど泊る二人の旅人ひもじ
南無三賓ぢなりとてそこ
ぐれなく相応振なれども庭木の七八本
情なりけれ共八代とおの蜂ハ新座つゞ